

## 何が起きたのか、その3

多数の感染者の**個室隔離は困難**であった

【背景】陰圧個室なし

ドア付き・トイレつき個室がない

隔離により入居者が不穏・興奮・せん妄に



【学び】 **アウトブレイクしたら集団隔離しかない**

- ① 初発患者の隔離場所を決めておく
- ② 生活エリア全体を広くゾーニング

## 初発(疑い)患者を隔離する場所

- スペースのゆとり(入居者のストレスを考慮)
- ドアがあること
- トイレがあること
- 手洗いがあること

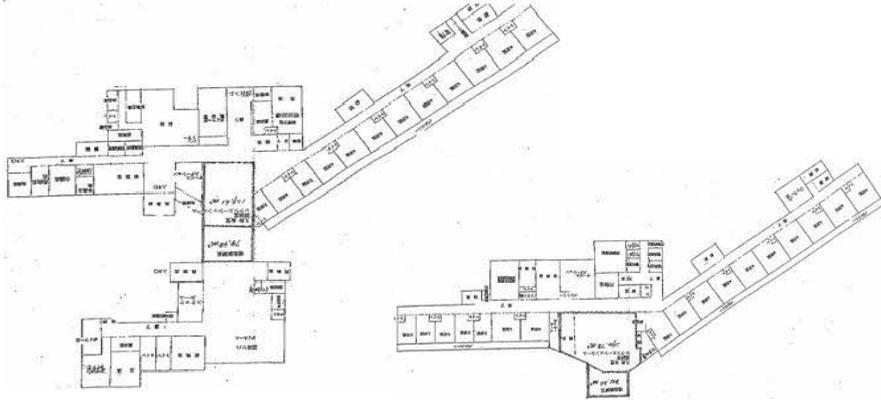


職場内で  
決めておく

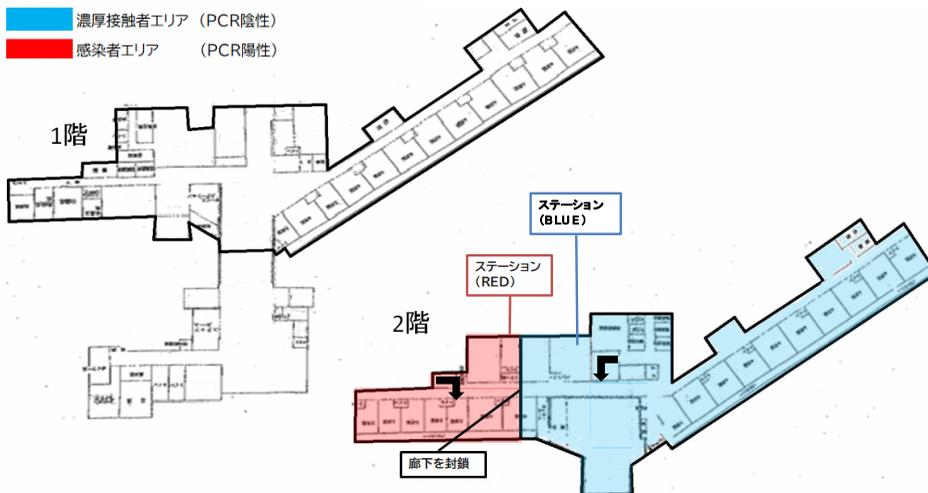


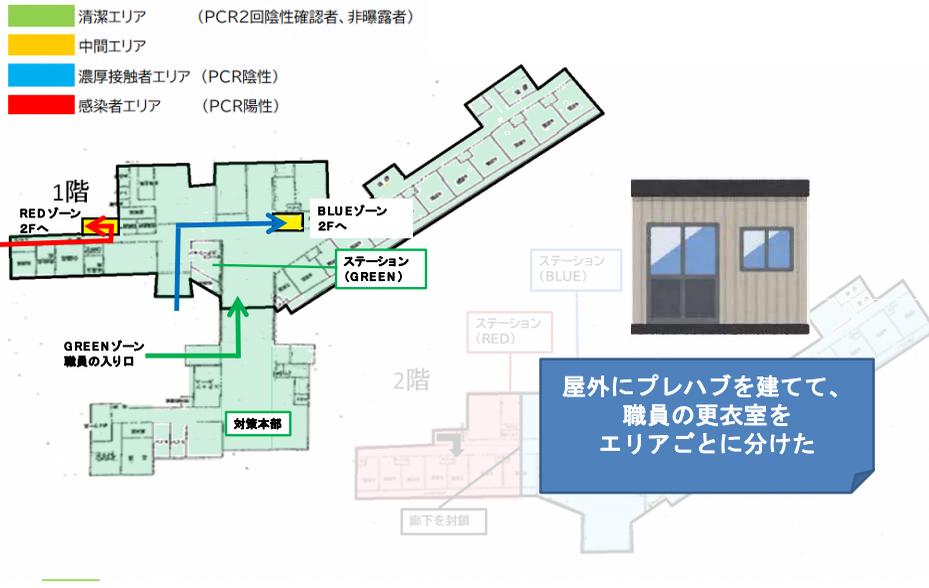
4/26以降 PCR陽性者が続出。  
ゾーニングにより、

1. 集団隔離する
2. 職員の動線を整理する
3. 防護具の着脱を確実に行う

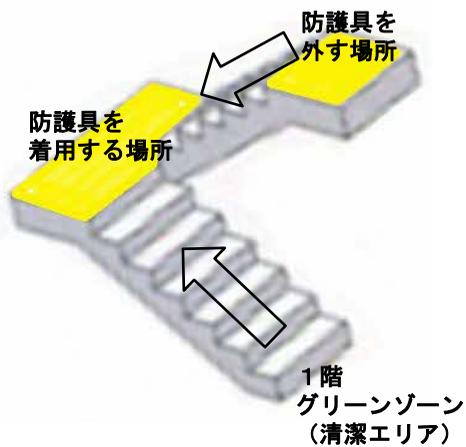


- 清潔エリア (PCR2回陰性確認者、非曝露者)
- 中間エリア
- 濃厚接触者エリア (PCR陰性)
- 感染者エリア (PCR陽性)





## 階段がイエローゾーン(中間エリア)



## 何が起きたのか、その4

- 25人の職員が感染した
- アウトブレイク初期は、N95マスク、ゴーグルの備品なし
- 感染対策研修を実施する人材・マンパワーなし
- 備品整備、研修実施後の職員感染者は0名であった



### 【学び】 防護すれば感染しない

- ① 防護具の在庫確保
- ② 全職員に実技トレーニングを含めた研修



レッドゾーン（感染者）だけでなく  
ブルーゾーン（濃厚接触者）に入る時も、これらの防護具を着用します！

N95マスクを使えるようにしておく  
常に、口・鼻・眼を防護する

エリアに入る全ての人に、  
防護具着脱のトレーニングを実施

## 最低3日分の防護具を備蓄しましょう



1日(職員20人)に  
要した防護具と消毒薬

N95マスク	57枚
サージカルマスク	1.7箱
ニトリル手袋	4.4箱
長袖ガウン	64枚
フェイスシールド	24枚
サージカルキャップ	96枚
防護服	8枚
手指消毒用アルコール	2L

(5/16~6/6、22日間の払い出し数)

## 何が起きたのか、その5

### 職員が通常時の20%に減少

【背景】感染に対する不安や恐怖心

どの施設も応援に出す職員の余裕がない

差別: 夫の職場、子供の学校に影響



### 【学び】介護士の人員派遣は難しい

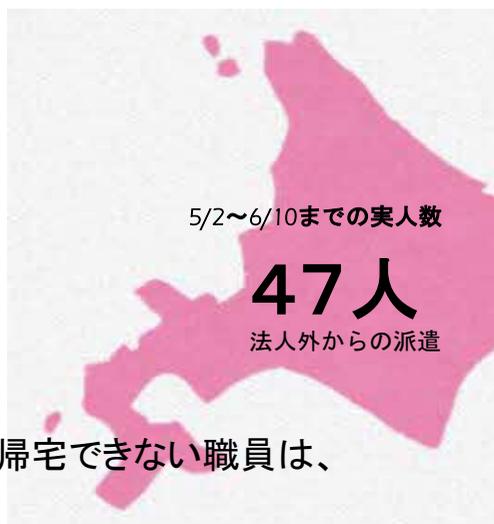
- ① 感染症、感染対策の知識・技術を習得
- ② 自宅に帰れない職員の宿泊施設の準備
- ③ いざというときの応援体制を構築

## 最終的には多くの支援がありました

法人内  
介護士 7人  
看護師 1人  
医師 0人

法人外  
介護士 7人  
看護師 19人  
医師 21人

\* 遠方からの応援職員、帰宅できない職員は、  
近隣宿泊施設に宿泊



## 何が起きたのか、その6

**委託業務の受託が中止**された

現場の職員が、清掃、リネンの洗濯を  
行わなくてはならず、更に業務過多になった



**【学び】 委託業務の中断は、現場に多大な負荷に**

- ① 感染症、疑い患者発生時の委託業務について  
事前に業者と話し合っておく
- ② 委託業務が中断した時の対応案を用意する

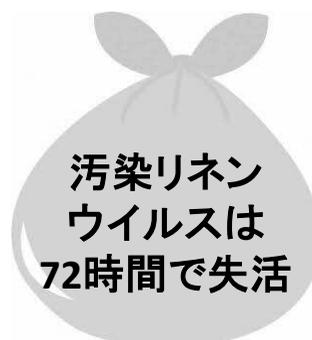
## COVID-19流行期の日常清掃は、 医療施設用の除菌洗浄剤を使用



“加速化過酸化水素水”  
優れた洗浄・消毒効果。環境に残留せず人体に安全

[http://www.teccs-jp.com/pdf/top/hyprox\\_accele\\_series.pdf](http://www.teccs-jp.com/pdf/top/hyprox_accele_series.pdf)

## 使い捨て清拭タオルの利用 リネンは72時間放置後に洗濯業者へ



<https://www.hakuzo.co.jp/product/product01/itemlist/item/482-2019-06-17-09-16-17>

## 施設としての備え

- 防護具を常備する
- 対応指針、初動対応のフローは準備しておく
- 初発患者の隔離・ゾーニング案を検討しておく
- 隔離壁用のシート、感染性廃棄物などの準備
- いざ！というときのCW・NSの応援体制を検討する
- 感染対策マニュアルに標準予防策を組み入れ、実施状況を定期的に評価する(特に環境衛生)
- 感染対策研修(実技を含む)を企画・実施する
- 感染者発生時の委託業務について業者と協議する

## 個人の備え

- 3密の回避＋手指衛生の励行
- 平時の体調管理と有症状時の報告・自己隔離
- 咳・喀痰・便など感染性物質に曝露すると予測される時は、自身の眼・鼻・口を防護する
- N95マスクなどの防護具の着脱手技を習得する
- 職場内で、新型コロナウイルス感染症に関する理解を深め、感染防止、感染者発生時の対応を平時から話し合っておく